

H30学力向上アクションプラン(別府市)

目標及び指標

【目標】

- ①基礎・基本の定着と、活用型学力の育成
- ②児童生徒の家庭学習習慣の定着
- ③児童生徒の読書習慣の定着

達成指標

取組指標

①全国学力学習状況調査において ・小学校6項目で全国平均正答率を上回る ・中学校6項目で全国平均正答率を上回る 大分県学力定着状況調査において ・小学校6項目で偏差値50を上回る ・中学校10項目で偏差値50を上回る	○指導主事による要請訪問等 → 学力向上関係:年2回、授業研究会:各学校1回以上 ○指導教諭や学力向上支援教員、習熟度別指導推進教員の活用 → 公開授業:年3回以上、ブロック連携協議会の開催:年2回以上、自校教員への指導 ○研究主任会等:小中合計7回 ○教務主任会議:年6回
②全国学力・学習状況調査において 【小学校】 ・家庭学習時間が一日1時間以上 70%以上(H29は60.6%) 【中学校】 ・家庭学習時間が一日3時間以上 10%以上(H29は8.4%)	○家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ることを、よく行った割合 → 小学校80%以上(H29は71.4%)、中学校60%以上(H29は50%)
③全国学力・学習状況調査において 【小学校】 ・家庭読書時間が平日1日10分以上 70%以上(H29は53.9%) 【中学校】 ・家庭読書時間が平日1日10分以上 60%以上(H29は43.5%)	○図書館を活用した授業を計画的に行った割合 → 小学校:月に数回以上行った75%以上(H29は57.2%) → 中学校:学期に数回以上行った70%以上(H29は50%)

行動計画

- ①「新大分スタンダード」に基づく組織的・計画的な授業構想による質の向上について
 「ねらいが明確で、『質の高い課題』と『適切なまとめ』がある授業」の構築を目指して以下の取組を実施する。
 - 『質の高い課題』と『適切なまとめ』がある授業を目指した授業改善をテーマとして、教科の壁を超えた校内研究を推進する。
 - 管理職は、「ねらいが具体的であるか」「ねらいの達成につながる課題・まとめであるか」「児童生徒の解決の意欲と態度を生み出す課題であるか」の視点で、重点的指導を推進する。
 - 研究主任研修会において、『質の高い課題』と『適切なまとめ』がある授業についての理解を促進する。
 - 指導主事が校内研究会等に参加し、「質の高い課題」と「適切なまとめ」に焦点を絞った指導を実施する。
 - 学力向上支援教員、習熟度別指導推進教員の公開授業により、『質の高い課題』と『適切なまとめ』がある授業を解説する。
- ②「中学校学力向上3つの提言」に関して
 - 1 学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底(上記のとおり)
 - 2 学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築
 - 教科部会において、校内授業研究会や一人一実践の指導案審議を実施することで、若手教職員を育成するとともに、互いに授業指導力を磨き合う機会をつくる。(中学校)
 - 学年部会等において、校内授業研究会や一人一実践の指導案審議を実施することで、若手教職員を育成するとともに、互いに授業指導力を磨き合う機会をつくる。(小学校)
 - 3 「生徒と共に創る授業」の推進
 - 各学校において、生徒による授業評価を実施し、その活用方法や成果と課題を、研究主任会等で交流し、各校における取組の推進に活かす。
 - 学びに向かう学習集団づくりを目指した各校の取組を、研究主任会等で交流し、各校における取組の推進に活かす。
- ③新学習指導要領の実施に関して
 - 小学校外国語への対応
 【教職員】平成29年度より実施している外国語研修(年3回程度)を継続して実施する。
 【児童】3,4年生は年間35時間の外国語活動の実施
 5,6年生は年間70時間の外国語活動(外国語科を含む)の実施
 - 学校運営協議会を中心とした取組
 家庭・地域による家庭学習習慣の定着に向けた取組を設定・実施・評価・改善を行い、取組を充実させる。
 読書に親しむために読み聞かせなどの取組や、朝読書の時間を確保する取組を通して、家庭読書に取組む児童生徒を育てる。
 - 別府市学力調査の実施(1月初旬)
 - 小中学校にICT支援員(5名)を派遣
 - 問題データベース
 小学校:国語・社会・算数・理科 中学校:国語・社会・数学・理科・外国語